

論文審査の要旨
(Summary of Dissertation Evaluation)

博士の専攻分野の名称 (Major Field of Ph.D.)	博士 (教育学) Ph.D.	氏名 (Candidate Name)	今津 麻衣
学位授与の要件	学位規則第4条第1・2項該当		
論文題目 (Title of Dissertation) 弱視のある人の読みトレーニング効果 — 読み速度の向上を目指して —			
論文審査担当者 (The Dissertation Committee)			
主 査 (Name of the Committee Chair)	教授	氏間 和仁	
審査委員 (Name of the Committee Member)	教授	木内 良明	
審査委員 (Name of the Committee Member)	教授	川合 紀宗	
審査委員 (Name of the Committee Member)	准教授	林田 真志	
〔論文審査の要旨〕 (Summary of the Dissertation Evaluation)			
<p>本論文は、読みトレーニングにより弱視のある人の読み速度向上を目的とし、擬似偏心視で文字知覚の特徴を明らかにしたのちに、当事者を対象として読みトレーニングを実施し、その効果として読み速度や一度に認識できる文字数であるビジュアル・スパンから検討したものである。</p> <p>論文の構成は、次のとおりである。</p> <p>第1章では、視覚障害の困難や読みトレーニングについて先行研究をレビューして研究背景をまとめた。</p> <p>第2章では、本研究の目的と研究の構成を述べた。本研究の重要な要因である読み速度の測定法や分析方法について論述した。特に本論文の分析の際に重要となる、RSVP(rapid serial visual presentation)及びESP(elicited sequential presentation)を用いた読み速度の推定法、累積ガウス関数、ワイブル関数、分割ガウス関数を観測データにフィッティングする手続きの説明を行なった。</p> <p>第3章では、晴眼者の偏心0°と10°における仮名单語と漢字単語を認識できる文字の大きさである最小認識文字サイズを測定した。その結果、漢字は仮名より大きい文字サイズが必要であることが示され、特に偏心10°では提示時間が長くなるほど最小認識文字サイズが小さくなる時間負荷効果が示された。本研究では日本語の偏心10°の最小認識文字サイズを定量的に示した。</p> <p>第4章では、晴眼者の偏心0°、10°、20°における仮名1文字を認識できる文字の大きさである文字知覚閾を測定した。その結果、偏心10°は0°の約7倍、20°は0°の約23倍であることが示された。偏心度から仮名1文字の文字サイズを推測できることが新規的な発見である。</p> <p>第5章では、偏心度×文字種×モーラ数の3要因で音読潜時と正答数を測定した。無意味語の正答数から偏心視の語句推論の重要性、音読潜時の結果から文字の混み合い度(クラウディング)が知覚に影響を与えている可能性を指摘した。</p> <p>第6章では、偏心視の弱視2名に読みトレーニング1および2を4日間ずつ実施し、読み速度に与える効果を検討した。トレーニング1の読み速度は約2倍に速くなり、参加者は効果を実感することができた。トレーニング2の開始時はすでに、トレーニング1で読み速度は高められていたため、読み速度の大きな変化はみられないことが示された。</p> <p>第7章では、トレーニングの学校教育での適用を考慮し、弱視の7名に1時間の読みトレーニングを実施し、トレーニングの効果を3グループに分けて考察した。本研究の読みトレーニング法では、</p>			

固視が安定している人が特に効果が高いことを明らかにした。全ての参加者の固視状況はMP-3を用いて定量化された。また、ビジュアル・スパンが大きいほど読み速度が速くなることが示された。本研究で提案している読みトレーニングにより短時間で文字を正確に認識できる可能性が推察された。

第8章では、本研究を総合的に考察し、読みトレーニングにおける成果と課題を述べ、より簡易に実施できる読みトレーニング法の検討を今後の課題とした。

本論文は、次の3点で高く評価できる。

1. 日本語の仮名と漢字を用いて、擬似偏心視の文字知覚に必要な文字サイズ及び文字知覚の特徴を明らかにした。
2. 弱視の人を対象に文字処理速度向上を目的とした読みトレーニングを実施し、その効果として読み速度が向上することが示唆された。
3. 読みトレーニング効果は中心暗点の有無に限らず、固視状況が安定している人により効果的であることが示唆され、わずか1時間のトレーニングでも読み速度やビジュアル・スパンの向上が確認された。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（教育学）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

令和 6年 2月 9日

備考 要旨は、A4版2枚（1,500字程度）以内とする。

(Note: The summary of the Dissertation should not exceed A4 size, 2 pages (about 500 words).)